

⑩ 日本国特許庁 (J P)

⑪ 特許出願公告

⑫ 特許公報 (B 2)

昭 63 - 15422

⑬ Int. Cl. 4

識別記号

庁内整理番号

⑭ 公告 昭和63年(1988)4月5日

E 04 D 1/02
3/36B - 7238 - 2E
A - 7238 - 2E

発明の数 1 (全4頁)

⑮ 発明の名称 金属瓦屋根構造

⑯ 特 願 昭57-86534

⑰ 公 開 昭58-204260

⑱ 出 願 昭57(1982)5月24日

⑲ 昭58(1983)11月28日

⑳ 発 明 者 船 木 元 旦 神奈川県藤沢市下土棚430

㉑ 出 願 人 船 木 元 旦 神奈川県藤沢市下土棚430

㉒ 代 理 人 弁護士 福田 信行 外2名

審 査 官 岡 千 代 子

㉓ 参 考 文 献 実開 昭52-78924 (J P, U) 実開 昭57-32427 (J P, U)

実公 昭52-78924 (J P, Y 2)

1

2

㉔ 特許請求の範囲

1 屋根の傾斜方向に沿って等間隔で設置した支持材と、隣り合う支持材間に両側をそれぞれ固定される金属瓦材と、上記支持材と金属瓦材の接続部分を覆うべく該支持材上に固定されるカバー材とを備え、上記金属瓦材およびカバー材は、それぞれ下方の上端部に上方の下端部を上から重ねて順次下方から上方に葺く金属瓦屋根構造において、上記支持材は断面が逆U字状な長尺材で、この金属長尺材の頂部両側に上記金属瓦材固定用切起片を設けるとともに頂部中央にカバー材固定用切起片を設け、該金属瓦材およびカバー材には上記各切起片に挿通すべき固定孔を穿設し、かつカバー材の固定孔は、上方のカバー材の下端部によって覆われる上方位置に設けたことを特徴とする金属瓦屋根構造。

発明の詳細な説明

本発明は、金属瓦材を用いて葺く屋根構造に関する。

金属瓦屋根は一般に、屋根の傾斜に沿わせて等間隔で支持材を固定し、隣り合うこの支持材間に両側を固定しながら金属瓦材を下方から順次葺き、さらに金属瓦材と支持材の接続部を覆うように支持材上にカバー材を固定して構成されている。しかるに従来構造では支持材が木材からなっており、この木材に対して現場で位置を決めながら釘

ため作業能率が甚だ悪く、また釘を打った部分から木材である支持材に雨水が浸み込んで支持材が腐食するという問題があった。

本発明は、このような従来構造の問題点を解消するべくなされたもので、支持材として金属板を断面が逆U字状の長尺材を用いることに着目し、この金属製長尺材に予め位置を定めて金属瓦材およびカバー材を固定するための切起片を設け、他方金属瓦材およびカバー材にはこの切起片に対応する固定孔を穿設して屋根工事の迅速化を図り、同時に支持材の腐食の問題を解決したことを特徴としている。カバー材の固定孔は、上方のカバー材の下端部によって覆われる上方位置に設けるため、雨仕舞も確実に行なうことができる。

以下、図示の実施例により本発明を説明する。

建築物の垂木1に直交する野地板2、2…、および野地板2、2…に敷かれる下地材3が固定され、この下地構造部分の上面に、金属製長尺材からなる支持材10、金属瓦材20、およびカバー材30の三要素からなる本発明の屋根構造が葺かれる。

支持材10は、金属材を曲折形成した長尺の逆U字状部11と、この逆U字状部11の下端両側から外方に屈曲した接続縁12、12を有している。逆U字状部11の頂部13の両側部には、予め定めた所要の間隔で、金属瓦固定用切起片（以